

社会教育委員の会議 会議概要

1	審議会名	令和5年度第2回安曇野市社会教育委員の会議
2	日 時	令和5年11月24日(金) 午前10時から11時30分まで
3	会 場	安曇野市役所 本庁舎大会議室
4	出席者	猿田みさ子委員(議長)、丸山明男委員(副議長)、高橋みち子委員、鳥羽將司委員、赤羽敦子委員、荻原義重委員、筒井年恵委員、池田安宏委員、伊藤政江委員、浅見郁子委員、三澤正彦委員
5	市側出席者	橋渡教育長、生涯学習課二木課長、文化課三澤課長、生涯学習課大蔵係長、生涯学習課山田係長、生涯学習課米倉補佐、生涯学習課臼井係長、生涯学習課小穴係長、生涯学習課遠藤係長、文化課佐野係長、文化課齋藤主査、文化課逸見係長、文化課奈良澤係長、スポーツ推進課小平係長、地域づくり課金子係長、高齢者介護課蓮井補佐、健康支援課小林係長、生涯学習課黒岩主査、小笠原
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	令和5年12月 日

協 議 事 項 等

会議概要

- 開 会 生涯学習課二木課長
- あいさつ 橋渡教育長
- 第2次安曇野市生涯学習推進計画の令和5年度目標等について《事務局説明》

【委員】

いわゆる妨げ要因の事だが、妨げ要因に対する対応などで、例えば公民館講座(2)の②に交通手段のない人でも、というふうに触れているので、この人たちにどうだったかという評価が必要なのではないかと思う。

【事務局】

交通手段がない方についての対応は、各地域の公民館等で講座を開催するということが現在の目標になっている。その他にはオンライン講座ができればということだが、現在はまだそこまで至っていない。

【委員】

内容的な事ではなくて申し訳ないが、今回の印刷物は見やすく、その配慮に感謝する。こういう意識を持つことが大事な事であると思う。

【委員】

協働のまちづくり出前講座の開催というところで、それぞれの課の方が地域に出向いて、説明であったり実演であったりしながら、その地域で課題となっていることを考える活動がある。例えば 防災等の出前講座のときに、一般参加だけではなく地域の役員の皆さんにも関係の皆さんにも案内をして来てもらうようにするとさらに充実してくると思う。

【委員】

コミュニティスクールの問題だが、研修会を行うにあたって、実情を把握して、実施をしてほしい。研修内容、講演内容が、実情を理解していないすごく初歩的な講演だったと思う。

それから、学校教育課で社会福祉協議会と連携して行った研修会があったが、教育委員会が募集するという研修のあり方は、圧力に感じてしまう。もっと自主的な参加の方法をとっていただきたい。

【委員】

図書館ボランティアの活動支援について、活動している人たちが皆高齢になってしまって、本当にただ1人でやっているというような声を聞いた。図書館に限らずいろんな活動しているところで皆高齢になってきて、活動が継続できないという現実があちこちに起きている。図書館のボランティアの活動も、本当に何かありきたりな事だけが書いてあるが、そういう活動の重要性をもっとアピールして、活動が途絶えないように何とかしていくことができたらと思う。

【事務局】

確かにこの問題というのは図書館だけの問題ではなく、全国的に活動してきているボランティアが高齢化していて、もう活動が出来ないという話は聞いている。なかなか団体・グループでの活動が難しくなってきたので、活動の場を提供するために個人登録をしてもらい、個人でやっていただくような活動の場になってきている。図書館にいつでも好きな時間に来て活動ができるというボランティアの受け入れ側も配慮しながら活動しているという状態である。

**【委員】**

ヤングアダルト(中高生)を対象としたとあるが、三郷の図書館に行くと、中高生が自習室なんかで学習していて、「中高生の利用、多いんじゃないの？」と思う。中高生の図書館利用は少ないか？

**【事務局】**

勉強に来ているという意味では確かに多い。特に三郷は立地条件がちょうど中学校の隣にあり、とても来やすい環境だと思う。反面、本の貸し出しはとても少ない状況である。かといって読書をしていないかと言うとイコールではないわけではないが、この世代にやはり読書離れがかなりあるということは認識している。

**【委員】**

以前に出たエスカレーター・エレベーターの設置は費用がかかって困難だとの話だったが、博物館が今の既存の施設として利用するなら、体の不自由な人たちに対する設備が必要だと思う。

**【事務局】**

6月に議会でもエレベーターが無理であれば階段昇降機を設置してほしいという要望をいただいた。その方向で検討していきたい。

平成27年度から新しい博物館を作ろうと言う様な事を考えてきたが、なかなか進まない。新しい博物館の整備方針をこれから改めて検討していくが、ぜひとも障がい者の方に配慮した施設になるようにしていければと思う。

**【委員】**

新市立博物館整備方針を委員会を立ち上げて検討するという事だが、箱ものは作れないというような話が確かあったと思うが、今の段階でどんなふうになっているのか知りたい。

**【事務局】**

必ずしも箱ものは作らない、あるいは作るというような結論はまだ出ていないわけではない。そうはいつても今の豊科郷土博物館をはじめとする博物館施設が非常に古くなってきて、痛みも進んできている。新しい博物館をつくるのか既存のものをどうするのかということをもたまたま検討していきたい。今の段階で、作る、作らないという結論はまだ出来ないところである。

4 令和6年度事業計画(案)について《事務局説明》

**【委員】**

来年度あたりから、全児童クラブで6年生までの受入拡大がされるというふうに向った。来年から6年生まで拡大していくと職員が足りないという問題があると児童クラブの職員が言っていた。現在でも大変困っているというが、6年生まで受け入れるとなると、その職員がどうなるのか。これは予算にもかわる事なので、全9児童館あるいは児童クラブに+aの職員が確実に確保できるかどうか。今後の日本の子育てをどういうふうにしていくかという大事な一つじゃないかと私は思う。ぜひ、安曇野市は、6年生まで児童クラブへ安全安心で通えるように、職員を確保していただきたい。

今人手が足りないという時代である。企業も今、大変人集めに苦労している。今後職員が確保できるかどうか、その辺を含めて6年生までの実施をお願いしたい。

**【事務局】**

本日子ども家庭支援課の担当が議会对応で不在なので、今頂戴したご意見に対して、後日担当から皆様に文書等で回答する。

**【委員】**

三郷では三郷文化公園体育館で放課後学習室をやっている。体育館の中でなくて、他にきちんとそういう施設を設けてほしい。

草取りの関係で、ただただボランティアに頼るのではなく、予算を確保していただきたい。

**【事務局】**

こちらについても、後日担当から皆様に文書等で回答する。

**【委員】**

昨日の市民タイムスに二十歳の集いのことについて掲載されていたが、記念品を自分たちがボトムアップで作っていくということはとてもいいことだと思う。加えて、そこに載っていたコメントがとても素晴らしくて、県外に出ても安曇野に戻りたいと思ってもらえたり、友達の繋がりを思い出して心の支えにしたりして、温かい気持ちになってほしい。そういうことは社会教育、生涯学習を進める上で、とても若い皆さんにとっても良い傾向なので、ぜひ6年度もそういう意味を持った20歳の集いにしていただければありがたい。

三郷地域事業の「元気に歩こう運動」について、ウォーキングコースの整備支援とあるが、この整備支援というのは直すときに市の職員が出てやるのか、材料費を負担するのかとか、その辺の詳しいことをお聞きしたい。協働のまちづくりの意味からも地域住民とやっていくのはとてもいいことだと思うがその辺を教えてほしい。

5年度はグループ支援ということが載っていた。三郷地域で活動しているグループを支援し、講座として行い活動の周知とメンバーの募集を行うことで、フラダンスについて全3回ということで今年度やっていると思う。こういう活動がとても良いと思う。芸術文化協会等々、人数もだんだん減っていく

中、また高齢化する中で、なかなか会員数が伸びないということがある。三郷の地域に限らず他の地域でも一つ二つなり、そんな講座を開催してもいいのではないかと思う。

**【事務局】**

「元気に歩こう運動」のウォーキングコースの整備費の関係だが、予算の関係もあるので、どのような要望があるかをまず取りまとめて、それに対応できるかどうかを含めて検討したい。

**【事務局】**

確かに現在、芸術文化協会では平均年齢が上がってきて、人数も少なくなっている。それも含めて地域でのいろいろなグループ活動の活性化が一つの課題であると思っている。公民館講座を中心に新しいグループ作りができる様な講座を各公民館長中心に検討したい。いいアイデアがあったらご意見等もいただきたい。

**【委員】**

今年度の企業人権啓発講演会は昨年度と違い共催で開かれると聞いた。人権の集いの中で変わると思うが、来年はまた元に戻した形になるのだろうか。

「公民館への補助」についてだが、合理的な配慮に関わる問題で、点字ブロックを設置するなど、その様な事が出てきたときに、補助が可能なかどうか。補助していただきたいと思う。

**【事務局】**

企業人権教育関係の人権啓発講演会だが、今年度は12月2日に人権の集いの中で、共催という形で講演会を行う。来年度については、今のところ未定である。人権の集いの担当課と協議して、共催の可能性もある。

地区公民館の建設の補助に関して、現在障がい者に向けた配慮という特別な要件はないが、改修等の補助があるので、それに対応いただければと思う。

**【委員】**

大きな改修について補助はあるが、細々とした改修への補助は考えていないか。

**【事務局】**

建設の補助金については、ある程度の規模のものを想定しているので、数万円程度だと対象にならない場合がある。これについては、今現在の要綱等ではそういうものに対応できていない。少額改修への対応は今後検討させていただきたい。現状は、ある程度の規模以上のものとなっている。

**【委員】**

人権教育指導員の基準に、健康という項目があったが、人権教育を進める上で必要性はないと思う。健康な人しかそれができないということは、問題だと思う。ぜひ検討してほしい。

**【事務局】**

課内で検討させていただく。

**【委員】**

コミュニティスクールについてだが、三郷と堀金はより具体的に書かれているが、明科・穂高・豊科は、学校と地域が連携、協働するために、地域と学校の連絡会を持ち、情報共有して、課題解決を目指すとしてあり、あまりにも抽象的である。もう少し子供の地域の実態を把握して、その課題はなんだろうと絞ってやっていかないといけないのではないかと考える。せめて三郷とか堀金のようにある程度の体制を少しずつ持っていかないと、なかなかその地域の特性を生かして進めていくことが難しいと感じている。三郷や堀金などから学んで、全市的にコミュニティスクールの活動が、もう少し一歩前進するようになったらいいなと考える。

**【事務局】**

ご指摘の通り、具体的でない記載で大変申し訳ない。中身的には、三郷・堀金と同様な活動だが、まだ具体的な期日等示さなくて大変恐縮である。今回は、しっかりと載せられるように努めていきたい。

**【事務局】**

穂高には小中学校が5校あり、それぞれ個性的な運営をしている。そこで地域と連携していくと、それなりに難しいものがあるので、引き続き対応していきたい。

**【事務局】**

明科地域は、小学校2校・中学校1校・認定こども園2園・高校1校。社協等々と情報共有を図っているところだが、具体的な事業はこれから計画していくところである。

**【委員】**

国からの方針を受けて、それぞれ公民館で取り組んでいるが、公民館が主になって進めていくことが大変ではないかなと感じたので申し上げた。うまく地域住民を巻き込んで、役割的には公民館が主だが、そこは大変難しいのではないかと感じた。

**【委員】**

コミュニティスクールのことで、中学校部活動が地域移行ということで今それがなされている。もう一つは、児童生徒の減少によって部活動がそれぞれの学校では成立しないという様なことで、地域性が出てきている。この指導者の育成を「スポーツ指導者講習会」というような形で、今後地域の中でボランティアが背負っていかなくちゃいけない。また、それぞれの指導をしてくれる方の手当という問題も考えていかないといけない。この部活動の地域移行というのは非常に難しい課題じゃないかなと私は見

ている。上手くいくためにはどうしていけばいいかをコミュニティスクールの会議でしっかりやって、それぞれの地区だけでなく、連絡を取り合っていないとできないと思う。これから10年先の児童生徒の減少を見たときに、かなり地域も大変。公民館活動をやりたくないから役員にもなりたくない、区長もなかなか出てこない。積極的にやってくれる人もいるかもしれないが、70歳まで働かなきゃいけないという日本の労働の傾向性の中で、果たしてこれからうまく移行ができるかどうかという事が心配される。

【委員】

地域の活動はどうにも難しいことになっていて、できたらやりたくないという思いがあって、区長をはじめ公民館長、その他委員を決めるのもとても今大変だと聞いた。仕事もとても多く、事業を始めるまでがとても大変で、良さを知らせていただくことがとても大変じゃないかと思う。事業計画はとても素晴らしいと思うが、来ていただくことが一番大変なことだと思う。コロナがあって今までであった事業もできなくなったり縮小したりして、また再開するときのエネルギーがとても大変。1回辞めてしまったらすると、やめる理由をつけられやすくなってしまって、年も取ったから辞めますとかそういうことが多くなってくる。本当に人を集めることとか、参加していただくことの大変さを実感している。

【委員】

「学社連携人権啓発事業」について、学社連携の中の参加団体、どんな団体がどの程度参加しているのか教えていただきたいということと、社会教育委員会がどんなふうに関わってくるかということ。

文書館事業の講座等について、もう少しきめ細かな広報をしてもらえればありがたい。

【事務局】

まず、学校の部活等の関係について、担当からご説明させていただく。

【事務局】

部活動の地域移行については、学校教育課でやっている活動になるので、スポーツ推進課はそれをフォローするような立場である。まず、令和6年までには休日の部活について移行していこうということが国・県の指針にあり、それに沿った形で今活動している。現状、市内7つの中学校のうち約3分の1が地域移行している。この後、令和7年までは休日の方で段階的に進め、令和7月年以降は平日の部活についても指導者を探して地域移行していこうと考えている。地域の指導者、そして先生の中には部活をもっとやりたいと考えている先生もいるので、その先生たちとの調整も合わせながら進めていくというのが現状である。

【事務局】

学社連携の関係の団体については、主に地区公民館等を中心とした人権教育推進委員、地域の皆様と一緒に人権について学んでいこうというものである。

【事務局】

文書館の広報に関してだが、豊科郷土博物館等と同じ様に広報しており、やり方はあまり大差ないと思う。具体的には、イベント情報を広報やホームページで流したり、チラシを配ったりしている。それから新聞・マスコミ等へのプレスリリースも行っている。ただ、文書館については、まだ知名度が低いのではないかと考えている。文書館が何をやっているか、どんな仕事をしてどういうことで市民の皆さんに貢献できるか、まだもう少し広報していく必要があると思う。

【委員】

コミュニティスクールの件について、この4月から始まってコーディネーターが入った会議が年に3、4回開かれたが、回数が足りないのではないかという話が出ている。関係委員が集まってもう少し密に話を進めていった方が、より5地区の足並みが揃っていくような気がする。

【委員】

堀金の場合は、学校運営協議会がある前に堀金地域の関係者団体が月一で行う会議があり、公民館関係者、小中学校、こども園、社協、図書館等がメンバーである。

【委員】

新しい博物館構想というのが再検討と出てきた。前はやらない方向、作らない方向だったが、少し進歩したと思う。安曇野市をこれから作っていく若い人たちが考えなければならないことは、歴史をきちんと保存していくことだと思う。それからもう一つは、5町村がそれぞれ残してきたたくさんの財産があるわけだが、老朽化とかで改修工事をしなければならない。ここで大きく転換をして、財産と残されてきた歴史を一つの大きな枠の中に入れて、安曇野というのはこういうものであるということを発信していくことが必要ではないかなと思う。

多くの方に聞いてみると指定管理の費用約1億円で、それぞれの小さな美術館とかそういうものが運営されているが、今後少子化になってきたときに、これが運営しきれぬかと心配している。新しい住宅ができたからといって安曇野市の人口が増えているかということとそうでもなく、人口が減っていくという時代が来ていると思っている。やっぱりどこかで大きな大旗をふって、物事の10年・20年先のことを考える、そういうプロジェクトが必要ではないかと思っている。

太田市長さんが安曇野を発信していきたいということだが、安曇野を発信するには何が必要かということも含めて、地域と行政がこう考えていく必要がある時代が来ていると思う。ぜひ再検討をしていただきたいと思う。

**【事務局】**

分かりました。

**【事務局】**

資料にある通り、新市立博物館構想見直しの検討に間もなく入る。この検討は、今年度と来年度2年かけて慎重に議論していく。今の博物館をどうするのか、新しいものを建てるのかどうかということも、もう一度、検討していきたい。進捗状況については、社会教育委員会等で報告していきたい。

**【委員】**

先ほどの大河ドラマについてだが、私が伊那市にいた時に保科正之を主人公に大河ドラマ化しようと、地域で署名をするというような運動があった。伊那市では保科正之の漫画を作って、どんな人物かということを学校教育でやっている。安曇野の場合は、まだそこまでいっていないが、地道な活動をしてくれたらいいと感じる。

部活動の話のだが、地域移行にあたって地域指導者の資格は問わない、保険は自分たちで入ってくれ、手当はつかないというようなことがあったと思う。でも、ぜひ見直しをしていただいて、指導者の資格であるとか、スポーツ指導員の資格を取りましょう、それについては補助を出しますよくらいのことをやってもらいたい。それからぜひ手当が出るようにお願いしたいと思う。

**【事務局】**

『安曇野』の大河ドラマ化については、政策部で音頭を取って行っている。今回のパンフレットについても政策部で制作して配布しているものである。文化課も大河ドラマ化を目指す過程で安曇野に関わる先人たちを多く知っていただきたいということで、政策部と足並みを揃えて様々な事業を展開しているところである。現在、博物館・文書館・美術館、それから公民館事業のアカデミーで、安曇野に関わるような講座を行ったり、図書館で特集をしたりというようなことを行っている。なかなかすぐに大河ドラマ化ができるということはおそらく難しいとは思いますが、市民の皆さんが興味持っていただけるよう醸成に努め、地道な活動をしていきたいと考えている。

**【事務局】**

地域部活の関係だが、現在地域移行している地域スポーツクラブについては指導者に手当は出ている。部活動の顧問以上にはならず、それ相当の額という形で算定して出している。ただ部費については保護者会から出している。保険料についても、負担していただいている。施設使用料については、100%減免という形になっている。ただ、地域スポーツクラブについては教育委員会が認めた団体となっている。

**【議長】**

文化課の2人も一言ずつお願いしたい。

**【事務局】**

指定管理について、新市立博物館構想の検討の段階で、全体的にこれからどうしていくか考えていかなければならないと思っている。

**【事務局】**

「文化財保存活用地域計画」の作成に入っているので、市内の指定されているものやまだ指定されていないが地域で大切にされているものを掘り起こしする中で、地域の皆さんに愛着を持っていただいたり、安曇野のことをよく知っていただくということをこれからチャレンジしていきたいと思っている。